

教育・保育施設等での骨折事故を防ぐために

骨折事故の現状

現状1.

大多数の事故誘因が

- 「こども自らの転倒・衝突」
- 「遊具からの転落・落下」



※令和2年度～5年度のこども家庭庁「教育・保育施設等における事故情報データベース」分析結果の平均値より

現状2.

事故の**7割**^(※)近くは、職員がそばで見ている離れた場所から見ているおきています



こどもを見ているも発生!

Check!

危険な場面と対策を改めてチェックしよう!
こども家庭庁 事務連絡(令和7年7月31日)
「【啓発資料】骨折事故に関する危険な場面と対策」
<https://www.cfa.go.jp/policies/child-safety/effort/tsuchi>



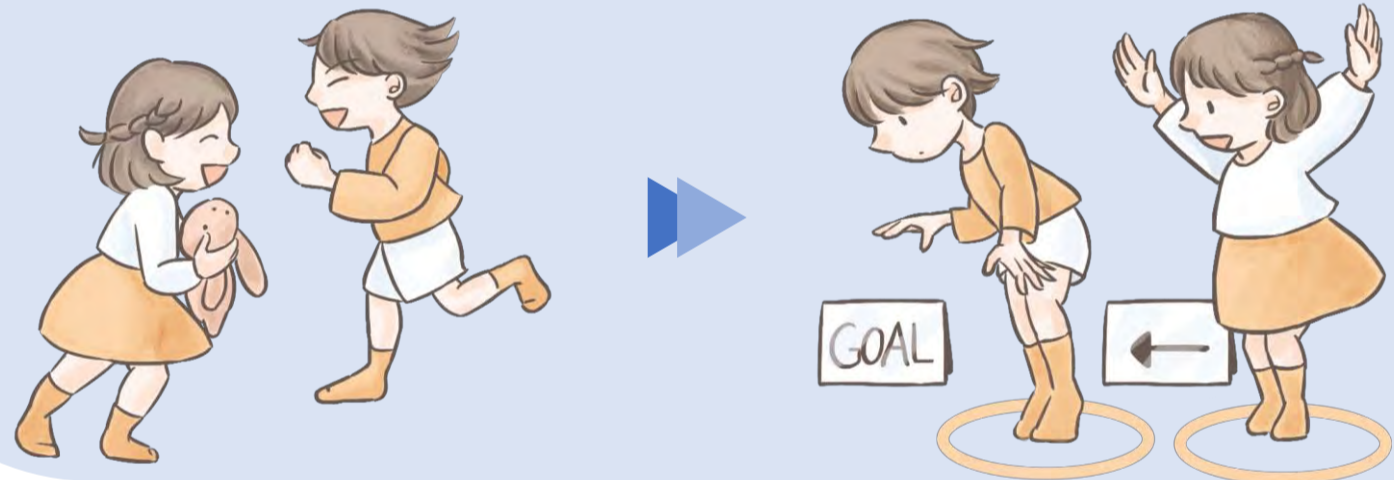
骨折事故を防ぐために

✓ 遊具・玩具・設備は、全面改修は難しくても危険な箇所から優先順位をつけ改善を!



ウッドチップに変更!

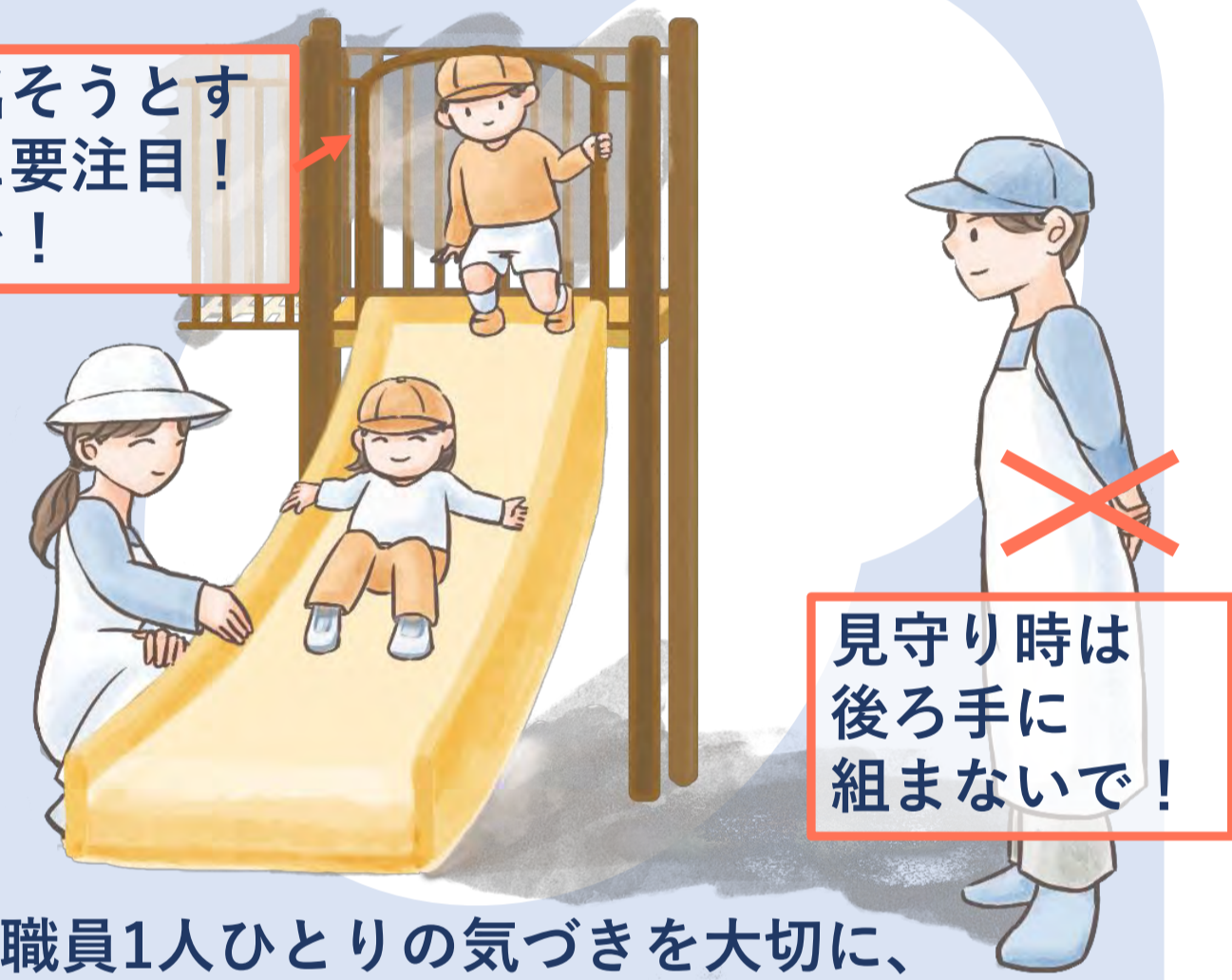
✓ 動きの抑制・規制ではなく、安全に遊べる環境づくりを意識し、動線や遊び内容に工夫を!



✓ ルールを一方向的に伝えるのではなく、こどもと一緒に安全のための約束を考える!



滑り出そうとする子に要注目! 制止を!



見守り時は後ろ手に組まないで!

✓ 職員1人ひとりの気づきを大切に、漠然と見るのではなく役割分担 & ポイントを押さえた見守りを!

骨折が疑われる事故が起きた! その時は...

初期対応フロー

事故が発生

1.安全の確保

職員がまずは冷静に!
その場にいるこどもたちを落ち着かせる

2.観察と対応

下記にあてはまる場合は**危険!**

- 意識、呼吸がおかしい、会話ができない
- 出血が多い、骨が見えている
- 頭部や顔面が骨折している恐れがあるように見える
- 嘔吐する
- 激しく痛みを訴える又は激しく泣く

あてはまる場合は**119番!**
すぐに救急車を!

左記ではないもの下記にあてはまる場合は、無理に動かさず可能な範囲で固定して、病院を受診!

- 軽く触れると痛がる
- ひどく腫れる
- 指などが曲げられない
- 内出血している
- 力が入らない

あてはまる場合は骨折の恐れ!
動かさず可能な範囲で固定して病院へ!



万一事故が起きた時のために、近くの医療機関をチェックして名称と連絡先をメモしておきましょう

近隣の医療機関・診療所

近隣の総合病院

名称:



近隣のクリニック

名称:



休日応急診療所

名称:



Point!

動かさない

こどもが一番楽な姿勢にして動かさないようにし、可能な範囲で固定する。

固定する場合に用意するもの

- 添え木(段ボール・厚めに折りたたんだ新聞紙などでもOK)
- 三角巾(バンダナ・ビニール袋などでもOK)

患部の固定

- 添え木を患部に添えて布で巻き付け固定する
- 腕の骨折などの場合は、三角巾等で吊るすことができればなお良い